



# 中高生とともに差別と闘う

## 「やらないよりは」

吉成タダシ (うずしおランチ代表)



### 「たくさん」はない

コロナ禍で「みんな語り合う人権学習」ができなくなり、臨んだ「オンラインで語り合う学年全体人権学習」。

やってみて思ったことは、私が話していることがちゃんと伝わっているかどうかがよく分からないので、すごく不安だったということ。リアルに目の前に中学生がいれば、「分かってないな」とか、「変なこと言ったかな」と思えるので、より詳しく話したり、尋ねて言い直したりできるのですが、それが難しかったということです。授業者側に、よりいいように聞いてほしいと求められるということがよく分かりました。

■最初の感想にも書いていたけど、今私たちが使っている教科書が無償化されているのも、昔の人の努力があったからこそだと思ふ。昔の人がしてくれてなければ、もしかしたらまだ教科書をお金を払って買わなければいけなかったかもしれないから、本当に感謝するべきだと思ふ。ほかのクラスの感想で、部落差別や人権についての勉強も、受け身ではなく、主体的に取り組むべきだというのが出てきて、先生も言っていたけど、大切なことだと思ふ。これからもこういう勉強はたくさんあると思うので、主体的に学んでいきたいいなと思ふ。

「たくさん」はないんですね。そして、なくても自分から学んでいく、それが主体性です。

高校には、総合の時間や特別活動

の時間はあっても、道徳の時間はありません。そのことをまず中学生は知りません。ということは、「今、人生で最後の人権学習を受けているかもしれない」ということをちゃんと伝えておかなければならないということなんです。

だからといって、卒業すれば人権について考えなくてもいいかということ、そうではあります。大人になればなるほど、よりいっそう人権意識が求められる。ということは、本当に主体的に、自分から更新(アップデート)し続ける必要があるということになります。昔の人の努力や頑張りによって感謝するならば、それをしていく必要があるということなんです。

### みんなの安心できる居場所

■教科書無償化運動をしていた部落の人たちは、自分たちだけそうならいいと思っていたわけではなく、部落外の人たちも無償化にしようとしていたと気づいたときは、とても驚きました。そしてこのことを見習い、私たちのクラスも、自分だけが良かったらいいという考えのクラスではなく、クラスみんなが楽しく幸せに過ごせるようなクラスにしたいです。

授業の最後の方に、いろいろな人が発表していました。やはりみんな共通して「嫌なことがあればはっきり言って、みんなの安心できる居場所には」と言っていました。私たちのクラスもこれを実現できたらしいなと思ふ。そして、受け

身ではなく、主体性を持って行動したいなと思ふ。

こんな形でも授業して良かったんだと、感想を読んで気持ちが軽くなりました。画面越しでも、他のクラスの間隙気だったり、他のクラスの友達や言う意見を聴くことで、どこか気持ちほぐれるというか、和むというか、ホッとしていたように思ふ。

本来ならこの時期、文化祭などの学校行事でそれがリアルに感じられ、緊張感の中でもホッとできていたものです。でもそれができなくなった今、せめてあの時間でも感じてもらえていたなら、それで十分です。それともう一つ良かった点は、やはり多様な意見や考えにふれられたということなんです。

嫌なことを「嫌だ」と言うことは、勇気がいることかもしれません。でもそれは、人間関係がまだ十分できていないから。もしそれができていけば、思ったことが素直に言え、そして素直に聞けるのだと思ふ。つまり、それが言える関係になっていこうということなんです。それが、みんなにとつて、安心できるクラス(居場所)になるということです。そこに落とし込んでいくのは、やはりみんな語り合えたからこそだと思ふ。

### やらないよりは

■今日の人権の授業で、私は一番に、自分の意見に素直でいることが大切だと感じました。周りの人に何を言

われても自分の意思を貫いたからこそ、人権を獲得できたのだと思ふ。また、自分だけ助ければ良いのではなく、未来のことも考えて行った行動は、自分にはなかなかできないことだと思ふ。先人が苦しい思いをしてでも掴み取ったものは、決して忘れてはいけないものではなく、これから先にも伝えていくべきです。簡単にはできないけれど、私はそう思いました。これからも私は、そんな素直さを忘れないように過(こ)していきたいと思います。

子どもたちの捉えは本当に様々です。そのどれもに学ばれます。「自分が良ければいい」「今が良ければいい」ではないという学びを、「教科書無償化運動」はちゃんと伝えてくれました。残りわずかな時間ですが、どの子にとつても「いい中学時代だった」と思ふ、みんなが巣立っていつてもらいたいと思ふ。初のオンライン授業は、案の定、画像がスムーズでなかったり、固まったり、見えなくなったりしたクラスもあったようです。音声も、聞き取りにくかったり、聞こえなかったりもしたようです。

でも、初物ということもあり、みんなよく聴いていたと、あとになって聞きました。慣れるまでは、何度も試しながら、失敗しながら、精度を上げていくしかありません。それでも、「やらないよりはマシ」ということはよく分かりました。これからも折をみてチャレンジを続けていきたいと思います。